

石鳥谷町人会だより



(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

<連絡所>在京花巻ふるさと会事務所
 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
 4-4-8 東京中央ビル603号室
 TEL 03-6256-8082・FAX03-6526-8083
 <事務局> 〒187-0031 東京都小平市
 小川東町1817-39 大竹雅夫方
 TEL : FAX 042-332-3025

しあいのこ



在京石鳥谷町人会
会長 高橋弘美

会員の皆さま、こんにちは。高橋弘美でございます。皆さまにおかれましてはお健やかに過ごしていることとお慶び申し上げます。

平成30年春号の「町人会だより」をお届けするにあたり、まずは昨年中に皆さまから在京石鳥谷町人会に寄せられたご支援、ご協力に対しまして心より御礼を申し上げます。

このお便りを皆さまにお届けする頃のお便りと石鳥谷は、いよいよ桜の季節を迎え春本番といったところでしょうか。しかし、この冬は日本全土に寒気が居座り、東北、北陸地方に留まらず西日本や首都圏まで雪の被害が及びました。まさに記録的な降雪・積雪となり、特に雪に強いはずの豪雪地帯がそれまでの記録を塗り替える降雪により大きな被害を受けたことが特徴的でした。首都圏に暮らす会員の皆さまも雪かき、除雪作業に汗をかいた方が少なくな

かったことと思います。

こうした寒い冬でしたが実は寒さなりではのうれしいこともおききました。「ご存知の方が多くと思いますが、大瀬川地区では毎年2月11日に「たろし滝測定会」を開催しています。私は初めて見学して参りました。今年も押し寄せてきた大寒波の影響もあって数回の崩落を繰り返しながらも当日には立派な氷柱が出来上がり、測定結果は4m55cmを計測し稲作の作況占いは「豊作」のことでした。

昨年は氷柱が崩落し計測不能という結果だったので関係者の皆様の明るい表情が印象に残りました。測定保存会会長の板垣寛さんが、たろし滝の存在を知ってからその太さと米の豊凶の関係に着眼したいとの思いから測定を開始して今年も44回目とのこと。これまでご来賓として県知事、花巻市長をはじめとして著名な方々がご参加され、また地元メディアにも大きく取り上げられる岩手県屈指の冬の風物詩となっています。

ここにちまで計測を継続してこられた板垣会長や支援スタッフの方々の熱意やご努力に頭の下がる思いを胸に、たろし滝から降りてきたその先でボランティアの皆さんからふるまわれた甘酒やひつまみのなんとつまかったこと！、五臓六腑に染み渡

る味とはこのことだな、と感極まりました。大瀬川地区の皆さん本当にありがとうございました。会員の皆様も是非「たろし滝測定会」に参加してみたいかがでしょうか。

さて、在京石鳥谷町人会は今年の11月4日(日)の総会・親睦交流会開催を以て創立30周年を迎えます。この記念すべき節目を迎えるに当たり各種の記念事業を計画しております。一つは記念誌の発行です。10周年、20周年の時も発行していますので今回も皆様からの寄稿も頂戴しながら編集を進めたいと思っております。二つ目は石鳥谷総合支所の敷地内に石鳥谷の花と指定されている「梅」の記念植樹をしたいと思っています。そして三つ目は皆さまの多くのご出席を頂いて総会・親睦交流会を盛大に開催し、ふるさとの銘酒で祝杯を挙げたいと思っています。何卒ご協力をお願い申し上げます。とは申しませんが事業推進には、財政的裏付けがどうしても必要になります。誠に恐縮でございますが、事業推進に係るご寄付をお願い致します。併せてご協力をお願い申し上げます。お願いばかりで恐縮ですが、是非心に残る30周年を迎えたいと思います。よろしくお願い致します。

祝 平成29年度 在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会



町人会女子会員によるフラダンス

平成29年度
在京石鳥谷町人会総会
滞りなく終える

平成29年度在京石鳥谷町人会
総会・親睦交流会は、11月5日
(日)、会場を上野精養軒として、
花巻市役所関係者、花巻市議会議
員、協賛企業様、近隣ふるさと会
の代表者等の御来賓、石鳥谷各地
区の協議会等からの出席者を含め、
164名の出席のもと盛大に開催さ
れました。

冒頭、物故会員への黙祷で始ま
りました。引き続き在京石鳥谷町人
会の会歌(「朋友」)を斉唱する
予定でしたが準備ができていなか
ったため順番を最後にするという
ハプニングがありました。高橋会
長の挨拶の中では、町人会会員で
おられる後藤榮氏が「瑞玉双光章」
「花巻市活力あるまちづくり表彰
2017」による表彰状を、同じく佐藤
忠男氏が「学校教育の振興に多大
な貢献」をされたことによる感謝
状を、受章・授与されたことにつ
いて紹介されると、場内は賞賛の
拍手につつまれるという目出度い
ひとこまがありました。

審議事項である平成28年度事
業報告・収支決算と同29年度度事
業計画(案)・収支予算(案)は、
いずれも原案のとおり承認され、
会長から来年は町人会創立30周
年にあたり、いろいろな記念事業を

検討しているので協力をお願いし
たい旨要請がありました。

来賓の祝辞、紹介のあと、会員
同士の親睦交流会では、乾杯に続
く会食懇談の後、郷土芸能である
大瀬川神楽や石鳥谷町人会女子会
員によるフラダンスが披露され満
場の喝采を浴びていました。毎年
参会者のお楽しみとなっている、
協賛企業様からの提供による特産
品の抽選会(空くじなし)が行わ
れ、会場内は、歓喜の声で大いに
盛り上がりました。

最後は、地区ごとの記念撮影の
あと、名残惜しくも散会となりま
した。毎年恒例となっていた参会
者全員で「石鳥谷音頭」の歌にあ
わせての踊りは、残念ながら時間
の都合により割愛せざるを得ませ
んでした。

なお、平成30年度の在京石鳥谷
町人会総会・親睦交流会は、11月
4日(日)、本年度と同じく上野
精養軒にて開催する予定です。会
員の方におかれましては、知り合
いの石鳥谷町出身の方やそのご家
族等関係者の方などに積極的にお
声かけいただき等のご協力をお願
いするともに次回も是非ご参加
いただきますようよろしくお願
いいたします。



乾杯の風景



瀬川花巻人会会長の乾杯挨拶



亀澤副市長(2.19付で退任)
の祝辞



毎年司会進行でご苦労されている菊池正弘、荒瀬富姫子両幹事の二人(上)

祝 平成 29 年度 在京石鳥谷町人会総会・親睦交



八重畑地区出身者の記念撮影

(下) 上野精養軒の料理。この店は日本におけるフランス料理の草分けとなっており、夏目漱石や森鷗外等多くの文学作品にも登場しています。東和町出身の萬鉄五郎はここで会食した記録が残っています。



左の写真は川村酒造店が醸造した一升のお酒です。ラベルには「純米酒 南部関 花巻農業高校産米使用 ヒカリノミチ」とあります。「ヒカリノミチ」とは宮澤賢治が花巻農学校の教員時代に生徒のために作詞した「精神歌」の一節にある言葉で、生徒が歩む未来を表していると解釈されているそうです。同歌は今でも歌い継がれています。この純米酒は花巻農業高校の生徒たちが栽培した「ひとめぼれ」を100%使用し、純米酒に仕上げ、搾った後、一切処理をしない生原酒となっています。



(左上) 伊藤精司副会長の閉会挨拶



(右上) 協賛企業様からのご提供による特産品の抽選会の様子。進行役は佐藤忠男副会長。



来賓でご出席された大迫町人会の皆様。一昨年の百周年事業お疲れさまでした

平成 29 年度在京石鳥谷町人会故郷芸能披露 大瀬川神楽



大瀬川神楽の由来

大瀬川神楽保存会

大瀬川神楽は、早池峰岳神楽の流れを汲む貴船神楽である。明治元年八幡神楽の弟子が伝えたとされる。昭和 20 年代、座元を上野家として 7 軒で構成し、同 30 年頃までは小正月に大瀬川地区各戸門掛けしていた。同 33 年に火災により衣装、面など一式すべてが消失。その後、後継者不足のために大瀬川神楽は途絶えたが、同 52 年に大瀬川公民館事業として有志により大瀬川神楽保存会として再発足、同年 5 月石鳥谷町神楽大会に出演した。以降毎年、同大会に出演を続けている。同 63 年 1 月「石鳥谷町無形民俗文化財」に指定、平成 13 年「芸文教文化功労団体」として表彰。同 18 年より畠山絹雄氏を神楽保存会会長として現在 6 軒で構成し、「鳥舞」「八幡舞」「権現舞」を伝承しながら石鳥谷町神楽大会のほか地域神社例祭の御神楽奉上进行い、伝承活動を続けている。

大瀬川神楽出演者名簿 (敬称略)

- 畠山 絹雄 (大瀬川神楽保存会会長、笛)
- 板垣 由三 (鉦)
- 熊谷 茂 (舞手、八幡舞、権現舞、言立て)
- 藤原 美輝 (舞手、八幡舞、権現舞、シコ取り)
- 熊谷 和典 (太鼓、鉦、舞手、権現舞・頭)
- 熊谷 美奈子 (鉦、太鼓)
- 熊谷 秀典 (手伝い)



東和町友会の集いに参加して
草間マサ子（八重畑出身）

昨年11月12日、「第39回在京東和町友の集い」がお茶の水東京ガーデンパレスで開催され石鳥谷町人会からは、高橋会長、大竹副会長以下8名が出席、私は東和町友好会として出席しました。110人を超える参加でした。

総会、親睦交流会次第に添い、蟹澤会長のご挨拶があり、今年度の報告のあと、来賓の花巻副市長の御挨拶、来賓紹介で乾杯、食事をとりながら、歓談となり、顔見知りの方と・・・お話しができました。

アトラクションとして、金津流横浜獅子躍あり、なつかしい思いで見入っていました。一番盛り上がりでの抽選会で、私には東和町で作ったフィンが当たりました。「集い」の最後には、会友全員により「北国の春」、新沼謙治作詞・作曲の「ふるさと」は今も変わらずを合唱し会は終わりました。

初めて参加しましたが、暖かさ、ほっこりした気持ちになり、交流会は必要だと思いました。当日の

開催まで携わった東和町友会の役員様、お疲れさまでした。ありがとうございました。



金津流横浜獅子躍

「丹内獅子躍(東和町)」
新井薬師節分会で演舞



「新井薬師梅照院」本堂前での演舞

2月3日(土)の節分の日、丹内獅子躍(東和町)の奉納演舞が「新井薬師梅照院」(東京中野区)において披露されました。この奉納演舞は今年で11回を数え、毎年行事としてすっかり地元に着しているようです。



中野サンプラザ前での演舞

この日の演舞には、在京花巻人会会長瀬川絃一氏の働きかけにより各ふるさと会から全体で20

名弱、我が石鳥谷町人会からも高橋会長、大竹副会長、佐藤副会長、川村(政)の四名が参加しました。午後五時半からは中野駅前「あぶり屋」で獅子躍一行をねぎらう懇親会が開催されました。

花巻物産展開催

於 平塚市



毎年恒例となっている「花巻の物産と観光展」が2月15日〜18日まで神奈川県平塚市市民プラザで開催されました。

石鳥谷からは、町人会が開催されるたびに特産品を提供していただいて協賛企業のうち、株式会社亀屋様、喜平堂様、協同農産株式会社様の出店がありました。

岩手県人連合会新春懇親会

柳原 政義 (八幡出身)

2月4日(日)日暮里ホテルラン
ウッドにて岩手県人連合会新春懇
親会が開催され、我が石鳥谷町人会
より総勢8名出席しました。

ただ今故郷岩手は、芥川賞『おら
おらでひとりいぐも』と直木賞『銀
河鉄道の父』の大ファイバーとのご
挨拶から始まり、箏奏者の長谷川愛
子様とご子息の尺八による「春の
海」の生演奏で、和の心に戻って春
を味わった後、お酒を酌み交わして
出席者と親交を深めました。



花農米「ヒカリノミチ」

生酒試飲会開催

2月17日(土)、「うおや」一丁目

銀座本店にて「花農米・ヒカリノ
ミチ」(生酒)の試飲会が開催され
ました。

この会は、石鳥谷町好地の川村酒造
店(川村祐基社長)のご協力により
開催されたものです。冒頭、花巻農
業高校長の軍司悟様から御挨拶を
いただき、引き続き同校同窓会長の挨拶
文が紹介され、会は進行しました。
濃厚な味わいのお酒を酌み交わり、
めったに顔を合わすことのない出
席者同士でしたが、方言をまじえて
の会話により親交を深めることが
できました。全体の出席者は17名
で、内、石鳥谷町人会からは7名
でした。

平成30年2月10日 岩手日日

育てたコメ日本酒に

花巻農高生 仕込み作業体験



【岩手】花巻市立花巻農高等学校(花巻市)の生徒100名が、10日、同校で「育てたコメ日本酒に」の体験学習を行った。生徒らは、稲刈りから脱穀、乾燥、精米まで、一連の作業を経験した。また、収穫したコメを、本校で醸造された日本酒に仕込み、醸成体験も行った。生徒らは、収穫したコメを、本校で醸造された日本酒に仕込み、醸成体験も行った。生徒らは、収穫したコメを、本校で醸造された日本酒に仕込み、醸成体験も行った。



軍司花農校長の御挨拶

第38回全日本綱引選手権大会
快拳、「いしどりや」女子
チーム決勝トーナメントに進出

三月四日、駒沢オリンピック公園
体育館で行われた全国綱引選手権
大会で、18回連続出場を誇る我が
ふるさと「いしどり」の女子チーム
は予選ブロックを5勝3敗(3位)
で勝ち抜き、初めて決勝トーナメン
トに進出するという快拳をなすと
げました。トーナメントの方は初戦
で敗退したものの、次の大会につな
がる戦いぶりであり来年は十分期
待できると確信しました。

町人会としても、引き続きこれま
で以上に応援していきたいもので
す。今回の応援は6名でした。若干、
寂しい感じがしましたが、来年は
多くの方々が参加されることを期
待します。



決勝トーナメント第一回戦で奮闘する「いしどりや」チーム

岡山重行ゆかりの地
 —鎌倉・横浜—を歩く
 川村政義(新堀出身)

タイトルの「岡山重行」という人名を見て、「この人、誰？」と思うにちがいありません。私もこの文章を執筆するまでは知りませんでした。

重行という人物は、歴史的に確証は得られていませんが、岡山重忠の孫と言われています。『石鳥谷町史上巻』には、重忠の子孫が我がふるさと石鳥谷大瀬川に移り住み、「大瀬川殿」と称しその末裔が「瀬川氏」であることの記述があります。伝承とはいえ若干驚いたことは否めません。

重忠といえは、源平合戦での活躍ぶりは特に有名で、武威武士の典型的人物で、武将の鑑として尊敬されています。生誕地は、埼玉県深谷市岡山といわれています。岡山氏は、坂東八平氏のひとつ秩父氏の嫡流の家系で、父重能のとき、秩父からこの地に移り住んで岡山の苗字を名乗りました。現在のこの地は、「岡山重忠公史跡公園」として整備されており、重忠とその家臣の墓といわれる五輪塔数基、他に伝重忠産湯の井戸、そして重忠公の銅像などがあります。

さて、冒頭に紹介した榊貫郡に下つ

たといわれる岡山重行はどのような人物だったのか前述の『町史』から引用します。

「源頼朝の重臣であった岡山重忠が無実の罪で滅ぼされた時、長子重保は父に先立って殺された。その時重保の側室の浅芳が妊娠していた。浅芳の婢女采女は浅芳を伴って、ひそかに鎌倉を逃れ父の郷里である駿河の国に落ちた。浅芳は男子を出生しこれを平太郎と名付けた。これが岡山重忠の孫である。浅芳は後に縁があつて榊貫秀利(俊)の側室となつて平太郎を養育したが秀利の老臣伊藤左衛門は平太郎を養子として、これを榊貫秀利の妹榊貫秀清の女をめあわせて、名を伊藤平右衛門重行と改めた。重行は榊貫氏の姻族となつてその子孫は榊貫系となつた(『瀬川榊貫系図』)。岡山の名族を引く重行は榊貫氏の庇護によつて榊貫郡に下り、大瀬川殿と称し、ここを領して瀬川氏の祖になつたといふ。」

以上、重行の父は重保(重忠の長子)であることを明言しています。重保は父親の重忠に似て文武に勝れ実直かつ勇猛で、一枚目でもあつたといひます。横浜市戸塚区汲沢地区は、重保の館があつたといふ伝承があるところですが、そこに伝わる米搗ぎ歌に「男に美男なけれども岡山六郎は美男子よ」と歌詞の中に登場しています。その他色々の

文献や歌舞伎演目『頼朝の死』にも登場しています。

今回、重保・重行親子のゆかりの地を紹介するべく、鎌倉と横浜を訪ねました。なにしろ800年以上の昔のことですので伝承としてしか確認できませんでした。

【鎌倉】



岡山重保の墓と言われる石造宝篋印塔

鎌倉駅を下車し「段葛」を由比ヶ浜方面に向かって徒歩10分程度進むと一の鳥居に着きますが、その脇に巨木で覆われた石造宝篋印塔があります。この地は元々岡山重保の屋敷であつたといわれ、墓は重保没後約200年後に建立されています。鎌倉に古くから住んでいる人には「六郎様」と言つて崇められており、重保は喘息の持病があつたといふこともあり、現在でもこの塔にお参りする(とて咳きの苦しみから

逃れらるる)といふ伝説があるようです。【横浜中金沢区】



左上に岡山重保の墓と言われる五輪塔が見えます

京浜急行・金沢八景駅を下車し、目的地へ着くには通常であれば、徒歩25分程度だと聞いていましたが、道に迷つたせいもあり一時間近くかかってしまいました。

到着したのは金沢区釜利谷南といつて岡山重保ゆかりの地です。ここは重保の領地でもあつたといわれており、「伝岡山重保墓」、「白山道六郎ヶ谷公園」、「六郎橋」、重忠が開基とされる「白山東光禅寺」があります。『新編武威風土記稿』によれば、岡山重保の墓に関して「北の方宿村の境にあり、五輪の石塔にて文字あれと摩滅せり土人云岡山六郎重保、この辺りの山中にて自害せしをここに葬れり」と記されています。

(次頁下段に続)



飯塚悦子さん手作りの「気になんて一品」

昨年の「ふるさと復興支援ツアー」参加者全員に素敵なお土産として、バーヤスマートフォンカバーのプレゼントがありました。(文末の写真)。プレゼントは、我が町人会副会長でもある飯塚悦子さんです。写真をご覧いただければ一目瞭然ですが、毛糸制でデザイン的にも優れてます。飯塚さんが趣味で手編みによってつくられたこのことで、これをいただいた皆さんからは「とても気持ちのこもったものなので、今後、大事に利用させていただきます」と、大変好評でした。

平成29年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会収支報告(平成29年11月5日 単位:円)

収入	支出	残高	備考
677,000			会員 88名(同伴含)
460,000			招待者からのお祝い (来賓、コミュニティ関係 計 76名)
	1,300,772		総会準備費(案内状・印刷・コピー)、精養軒、他支払
1,137,000	1,300,772	△163,772	

今後の主な行事(予定)

- ◆ 04月08日(日) 下町散策(お花見クルーズ)
- ◆ 06月02日(土) 在京石鳥谷町人会創立三十周年記念植樹式
- ◆ 08月13日(月) 石鳥谷花火大会
- ◆ 09月15日(土) ~17日(月) 第8回ふるさと復興支援ツアー(幹事は「大迫人会」)

(前頁から続く)

毎年3月には、近くに所在する禅林寺が中心となって畠山氏の子孫や地域住民等が参加する墓前祭が行われているようです。

畠山重忠やその子孫にまつわる伝承は武蔵國を中心に全国的規模にわたっています。いかに庶民に慕われた武将であったか想像できます。埼玉県深谷市では、重忠とゆかりの地を全国的レベルで調査した結果をインターネットで公表しています。岩手県だけに限ると、次のとおり七か所列挙されています。参考のために転記しました。

□一戸町・平糠館(重慶が、浄法寺に向かう途中立ち寄ったといわれる)。□大槌村(重忠の長男、畠山高高のゆかりの地)。□八久慈市・諏訪神社(1189年、源義経追討の將畠山重忠の創建と伝わる)。□紫波町・陣岡(重忠が由利維平を尋問した奥州征討の幕府側の陣)。□浄法寺町・浄法寺城(重忠の三男重慶が移り住み浄法寺氏の祖になったと伝えられ館跡が残る)。□田野畑村(平泉から逃れた義経を追う畠山重忠が残した鎧を祀る神社とか、義経が渡った川の位置を指して一の渡、二の渡の地名が残る(田野畑民話)。平成5年から川本町と友好町村交流を行っている)。□下田野畑村・畠山神社(建久年間に畠山一族が現在の田野畑大戸に移住したと伝えられ、その際、自らの守護神「桑形八幡大明神」を勧請し、同時に鹿島鹿踊りを習い伝えたといふ。「武蔵あぶみ」をご神体とする畠山神社は重忠ゆかりの一族を祭った神社と伝わる。菅達鹿踊りは「五三ノ桐」の家紋の鞍掛けを腰に下げている)。

以上紹介したゆかりの地のほとんどが伝承によるものです。とするならば、我が石鳥谷町大瀬川に伝わる伝承も取り上げられてしかるべきだと思います。いずれ深谷市に情報提供したいと思っています。